



5 本質を見極め未来に向けた改善を

— 森友・加計学園などの話題が連日報道されていますが

森友学園、加計学園、そして財務省の問題も、実はそれぞれ別の案件です。それを全て一緒に考えてしまうと、物事の本質が見えなくなってしまいます。例えば森友学園の問題については、国有地である以上、入札をして誰もが納得できる形で処理をするべきでした。それを怠ったことは猛省すべきであり、今後改善をしなければならない問題だと思います。

— 自衛隊についてはどのようにお考えですか？

時代とともに、国際社会から日本や自衛隊に求められるものは変化してきました。それに

伴って、やはり国民の意識も変えていかなければならないと考えています。

だからこそ、一定の事実を開示し、広く知ってもらうことが必要になります。自衛隊のさまざまな活動は、国民の理解があってはじめて可能になるものであり、またそれによって正しい判断もできるようになるのです。

世界の地域の人々は、国際経済や安全保障のパートナーです。戦後72年の努力によって、我が国は国際社会から大きな信頼を得ることができました。それら先人の築いた財産の上に、これからの国のあり方をのせていけば、日本はさらなる国際的な飛躍を遂げることができるはずです。安全保障や国際経済、環境問題、そして地域経済も、全ては大きなつながりの中にあるのです。

ごあいさつ GREETING

皆様大変お世話様になっております。

昨年10月に断行されました第48回衆議院議員総選挙では、群馬県唯一の立憲民主党候補との一騎打ちという非常に厳しい選挙戦となりましたが、多くの皆様のご支援のおかげで、3たび国政の場へお送りいただきました。

引き続き、ご支援をいただきました皆様のご負担にこたえられるよう全力で諸課題に取り組んでまいります。決意でございます。

さて、私にとりまして平成29年は、各委員会、部会等の活動のほか、議事進行係として議運理事会入りをしており、天皇退位についての歴史的議論に知らせていただき、また、自民党国対副委員長として国会における院内活動をさせていただきました。8月には、安倍内閣改造人事において環境大臣政務官に就任、総選挙後の第4次安倍内閣において環境大臣政務官に再任され、現在に至っております。多くの課題に取り組むことができた充実した一年であり、こうした活動ができるのも、お支えいただいている周囲の皆様のご支援のお陰様であり、改めて感謝申し上げます。

私は、環境大臣政務官として、豊かな自然環境を次世代に引き継ぐことを念頭に環境行政に取り組むとともに、引き続き、「地域の元気が、日本の元氣。」の信念のもと、地域の発展のため「皆様の声を国政へ」つないでまいります。

皆様の一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

環境大臣政務官・衆議院議員 **笹川博義**

プロフィール PROFILE

- 生年月日 / 昭和41年8月29日(51才)
- 趣味 / 映画鑑賞、ガーデニング、読書
- 家族 / 妻、一男二女の5人家族
- 好きな言葉 / 兼愛非攻

〈職歴〉

- 平成19年 / 群馬県議会議員初当選
- 平成23年 / 群馬県議会議員当選(二期)
- 平成24年 / 衆議院議員初当選
- 平成25年 / 衆議院文部科学委員会委員、政治倫理の確立及び公職選挙法特別委員会委員
- 平成26年 / 衆議院選挙当選(二期)、衆議院安全保障委員会委員、決算行政監視委員会委員、災害対策特別委員会委員
- 平成27年 / 衆議院安全保障委員会委員、環境委員会委員、災害対策特別委員会委員、我が国及び国際社会の平和安全法制に関する特別委員会委員
- 平成28年 / 衆議院安全保障委員会委員、議院運営委員会委員、法務委員会委員、政治倫理審査委員会委員、災害対策特別委員会委員、TPP特別委員会 理事、自由民主党環境部会 副部長、自由民主党農林部会 副部長、衆議院議院運営委員会 議事進行係
- 平成29年 / 衆議院議院運営委員会 議事進行係、農林水産委員会委員、北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会委員、自由民主党国会对策委員会副委員長、自由民主党環境部会 副部長、環境大臣政務官(第3次安倍第3次改造内閣・第4次安倍内閣)



本質に迫る

【笹川博義インタビュー】

環境大臣政務官・衆議院議員 笹川博義 「つなぐ」2018年 春夏号

TSUNAGU

Spring-Summer 2018

1 広い視野を持ち環境問題に取り組む



●パナコク 環境に関するアジア太平洋閣僚サミット

一 環境問題への取り組みについて お聞かせください

温室効果ガスによる地球温暖化やエネルギー問題など、環境問題は我が国のみならず地球規模で考えなければなりません。気候変動に対しては、温暖化対策の国際枠組みである「パリ協定」のもと、我が国でも温室効果ガスの排出削減目標を達成すべく取り組んできました。経済規模で見れば日本は世界第3位であり、やはりその規模に見合った責任と貢献を果たしていくべきでしょう。同時に、既に進んでしまった温暖化に対処・適応するため、「気候変動適応法案」を今国会に提出しました。気温の上昇は、自然災害の増加や農作物の品質低下など、さまざまな影響を引き起こします。この適応法案は、温暖化に関わるデータを集約して自治体などに提供し、防災対策や農作物の品種開発といった適応策を推進するものです。データを分析・

調査することにより、温室効果ガスの排出削減対策(緩和策)のさらなる強化にもつながると考えています。

一 国内では外来種の問題も話題ですね
昨年末にテレビ東京の人気番組「池の水ぜんぶ抜く大作戦」の収録に参加させていただき、草加市の「そうか公園修景池」のかいぼりを行いました。お正月に放送されたので、ご覧になった方も多いかもしれませんね。身近なテレビ番組を通して、自然環境や外来生物について一人でも多くの方が関心を持っていただければ、とても嬉しく思います。昨年大きな話題になったヒアリの問題も、夏に向けて再び警戒が必要です。外来種の侵入は、物流網の国際化と切り離して考えることはできません。経済活動を重視しつつも、目を向けていかなければならない課題といえるでしょう。



●環境委員会にて答弁



●尾瀬サミット



●かいぼり

環境大臣政務官・衆議院議員

笹川博義

本質に迫る

環境大臣政務官として、また地域と国をつなぐパイプ役として、さまざまな課題に全力で取り組む笹川代議士。

明るい未来と安心・安全な暮らしを目指す、その活動に懸ける思いをインタビュー。

環境問題から地域と国の連携、農業や中小企業対策まで、幅広いテーマについてじっくりとお聞きました。

(取材/2018年4月23日 衆議院第二議員会館)

3 地域と国をつなぎ思いを届ける

一 地方と国の連携についてはどのようにお考えですか？

よりよい政策実現のためには、市・町、県、国の綿密な連携が欠かせません。大切なのは地域の皆様の声。その思いをしっかりと国へ届け、パイプ役として地域と国をつなぐことが、私の役割だと考えています。現在、多くの地域では、産業おこしや魅力あるまちづくりが課題となっています。企業誘致も一つの手段でしょうし、自然や歴史、社会的資産を活用して交流人口を増やすこともできるでしょう。特に群馬県はものづくりが盛んな地域であり、働く人の感性を尊重しながら優れた技術を維持していくことが重要です。地域の経済が活性化すれば、「働く場所」「自分の居場所」の選択肢も広がるのではないのでしょうか。

一 地域活動での具体的な取り組みを教えてください

今年4月に前橋赤十字病院の新病院が完成し、屋上に加えて地上にもヘリポート

が設置されました。これにより、風の影響などドクターヘリの運用課題が大きく改善され、大規模災害時には自衛隊の大型ヘリや複数のドクターヘリの離着陸も可能になりました。私は群馬県議会議員時代から、このドクターヘリの課題に取り組んできました。新病院の完成は県にとって非常に喜ばしい出来事であり、関係者の皆様に心より感謝申し上げたいと思います。そのほか、東毛広域幹線道路を活用した県内経済の活性化や、2028年に群馬県で開催予定の国民体育大会に向けた運動設備の充実など、さまざまな課題に対して貢献するための力を尽くします。



●国道122号 館林明和バイパス開通式

4 中小企業から日本のものづくりを元気に

一 日本経済を支える中小企業が抱える課題とは？

中小企業・小規模事業者が抱える課題には、まず人手不足があげられます。多文化共生社会が構築されつつある現在、外国人労働者を雇用する企業も増加傾向にあります。しかし、経営者が「外国人は低賃金で雇用できる」という誤った考えを持っているならば、それは改めなければなりません。近年注目を集めている外国人技能実習制度についても、新しい制度設計も視野に入れながら党内で議論を進めています。

一 中小企業にとっては後継者不足も深刻なようです

平成30年度の税制改正によって、事業承継税制が大きく変わりました。中小企業の事業承継時の贈与税・相続税の納税が猶予され、事業を次世代に引き継ぎやすくなります。後継者不足によって中小企業が廃業し、優れた技術が失われてしまうと、日本経済にとっても非常に大きな損失となります。円滑な世代



●テクノフロンティアにて

交代が進み継続して事業が発展すれば、日本のものづくりの強化にもつながるでしょう。また、起業を目指す若い人々をサポートする仕組みも必要です。会社組織の一員として能力を発揮するのか、それとも自分の力で事業を興すのか、仕事に対する価値観は人それぞれです。さまざまな人生の価値観に応え、それを具体化できる社会をつかっていくべきだと考えます。

2 日本の農業と食を力強く支える

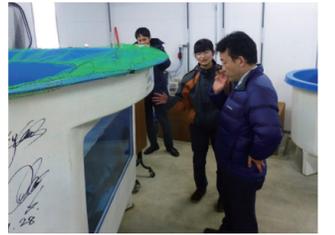


●農林水産委員会にて

一 日本の農業に関する課題とは？

昔に比べて食生活や食に対する感性は大きく変化しており、例えば家庭の朝食メニューを見ても、ご飯ではなくパン食が増えてきています。今後ますます少子高齢化が進む中で、国内の消費をいかに増やし、維持していくかは大きな課題です。高齢になってもしっかりと噛める健康な歯を守っていくことも大切でしょう。また、子ども達に対しては食育も重要だと考えています。食べ物の旬や地域の特産品を知り、学びながら食を楽しむことは、健康の維持にもつながります。それが結果として、国の活力のベースになるのではないのでしょうか。食べ物だけでなく、季節の移り変わりや緑などの自然環境も、私達に元気を与えてくれるものですね。

世界的にも、企業の環境の判断基準に取り組み「ESG投資」という考え方が広がっています。環境省でも、海外からの旅行者に日本の自然を楽しんでいただくための「国立公園満喫プロジェクト」を推進しています。



●支笏洞爺国立公園・鹿追町視察

一 経済成長の中でどのように自然環境を守っていけばよいのでしょうか

一昔前までは、経済発展と自然環境の保全とは、相反するものだと考えられていました。しかし現在では大きく価値観が変わり、経済成長と環境保全をまさに車の両輪として進める時代になりました。



●都市農地の法制度等検討PT(現地視察意見交換会)



●農作物収穫時の状況視察

「5.本質を見極め未来に向けた改善を」につづく

